

者也。望請殊蒙天恩、當寺領悉任勅願之寂志、爲三寶常住物、盡未來際無改轉、爲寺家一圓之地、永止國衙之續、并國使守護使等入部、應被停止造諸社以下官使、檢非違使、院官諸司、國使等之亂入、大小臨時之國役、關東鎮西上下早打役、吉備津宮役、白山金劔宮以下諸寺諸社神人、甲乙人等亂入狼藉之旨、被成下官符、備寺領安全之鑑、全寺用、彌欲奉祈天長地久之御願者、從二位行權中納言兼春宮權大夫左衛門督大學頭藤原朝臣實世宣、奉勅依請者、寺宜承知、依宣行之、符到奉行。

從四位上行左少辨藤原朝臣 在判

修理東大寺大佛長官正四位下行左大史

小槻宿禰 在判

建武二年四月廿二日

〔南禪寺に五山最頂の論旨を賜ひたるは建武元年正月廿六日のこととす。〕

五月廿五日。後醍醐天皇、山城南禪寺をして能美郡得橋郷半島村地頭職を知行せしめ給ふ。

【南禪寺文書】 山城

二五三

南禪寺領、加賀國得橋郷内半島村地頭職、爲寺領可令知行給者、依天氣執達如件。

建武二年五月廿五日 左中將 在判

夢窓上人禪室

六月三日。僧貞意、石川郡白山宮阿佛坊の赤糸の甲紛失したるに就き起請文を納る。

【白山比咩神社文書】 石川郡 二五四

敬白 天罰起請文事

件元者、阿佛房に赤糸の甲のうせて候。身におき候ては、とりたる事努くなく候。又人のとりたるをもみずしらす候。此若偽申候者、

奉驚上者梵天帝尺四大天王、下ハ内界外界の龍神八部、殊ニハ北野天満天神、別者白山七社權現部類眷屬惣テハ日本國中大小神祇冥道御罰を、貞意が身中ニ、近ハ三日遠も七日之内可罷蒙候。仍爲後日起請文之狀如件。

建武二年六月三日

貞意 在判 白敬

〔甲は俗用の兜の意にあらずして鎧のことなるべし。〕

又この文書の紙背に丹生都比賣神の畫像あり。

六月十八日。親高、石川郡白山宮に加賀郡倉月

莊内の田地を寄進す。

【白山比咩神社文書】 石川郡 二五五

奉寄進

白山權現内免田加賀國倉月庄

郷間在家内田事

合壹町伍段者 段別石代返抄 平付別紙

右件田者、依有心中所願、限永代馬場薩摩阿闍梨御坊實名、奉寄進白山權現明白也。公私萬難雖爲聊不可懸者也、仍爲後代之狀如件。

建武二年乙亥六月十八日 親高

六月十九日。能美郡能美莊地頭吉良省觀、惣公文八幡尙成にその職を安堵せしむ。

二五六

【菊大路文書】 山城

加賀國乃身庄地頭職、足利上總入道殿御拜領畢、而惣公文八幡彦七尙成、違背地頭所役之由、代官令注進之間、爲和尋子細申成御慥之處、地頭御方所役分任先例可致沙汰之旨、被出請文上去、代々關東御下文、任重代相傳文書等、止沙汰畢、仍狀如件。

建武二年六月十九日 沙彌 良信 在判

〔建武二年三月五日の條參照。〕

七月十四日。齋藤胤成、曩に次子眞將に與へたる鹿島郡萬行保東方地頭職を改めて嫡子茂成と眞將とに分讓す。

【得江文書】 二五七

讓渡 次男奥原藤七郎眞將所

在能登國萬行保東方内田屋敷事

右萬行保東方者、成光相傳私領也。建武二年三月十七日雖書與次男眞將仁讓狀、彼眞將諸事皆成光命之上、齋藤四郎茂成生得嫡男也。仍悔返之、於總分者讓與于茂成。